

## 会 議 録

会議名称	令和元年度宝達志水町地域福祉活動計画 評価委員会	記録者	地域福祉係主任
日 時	令和2年度3月6日（金）午前9時～午前10時		
会 場	町民センターアステラス 小会議室		
出席者	<p>【評価委員】 中村俊夫委員、松田文江委員、細川松夫委員、山黒修委員、一家剛委員、村田明日香委員</p> <p>【事務局】 米谷社協会長、下次事務局長、長谷川主幹、今江主任、北山主任、土上主事、側垣主事</p>		
会議内容	地域福祉活動計画の評価について		
会議結果	<p>【基本計画1について】</p> <p>●委員 「見守り会議」は自己評価2となっているが、今後ますます地域の見守りはとても大事となってくる。会議と言う形にこだわらなくても、もっと突っ込んだ形で試してみてもどうか。</p> <p>●委員長 見守り会議と地域座談会は分けなくてもよいのではないか。まずは集まって話し合うことが助け合いにつながっていくと思う。 毎年行っている区長と民生委員の情報交換会を強化してはどうか。</p> <p>●委員 集落単位にこだわらず、小さなサロンが立ち上がっているから、もっと小さな範囲で話し合えないか。</p> <p>○事務局 住民と話し合いをすると、みんなでなんとかしようというよりも行政批判になる傾向がある。 小さい範囲での話し合いの方が、助け合いについての声を上げやすいのかもしれない。</p> <p>【基本計画2について】</p> <p>●委員 福祉サービス利用支援事業については自己評価3となっているが、二</p>		

ーズに着実に対応できているため4に近いと思う。

●委員

住民への助け合いの推進は、昨年度から実施している「地域のお宝発表会」のような他集落の活動を住民に動画で見てもらえる機会を地道に続け、住民が自分たちもやろうと思ってもらえるようにするしかないのではないかと思う。

●委員長

今ある生活支援ボランティアは、一回いくらより独自のポイント制で考えてみてはどうか。その方がボランティアしやすくなるのでは。

○事務局

生活支援ボランティアは1回200円。利用者からボランティアに直接支払うことになっている。ニーズが見込めないなかで、事務の煩雑を懸念する。

●委員

生活支援ボランティア「ねこの手」の知名度は低いが活動者のやる気がすごい。これは評価する。

●委員

外出支援については、町も共に考えたい。

●委員

他の市町では、社会福祉法人が保有するバスを利用して買い物支援をしているところがある。当法人も可能性はゼロではないため、社会福祉法人のネットワークを作ってほしい。

○局長

令和2年度は法人間連携に取り組みたい。町との連携も、健康福祉課だけでなく、他部署とも連携していきたいと思っている。

【基本計画3について】

●委員長

1つの集落に2、3のサロンがあってもよい。その場合、どう世話人を育成するかが課題である。

●委員

町内には健康づくり推進員が実施する教室がいくつもあり、会長として内容を把握したいと思うが、なかなか把握できない。

【計画全体について】

●委員

評価2の項目はこのあとどうするか。

大事なことだと思って項目にあげたと思うので、できなかったからや

めるというのはどうだろうか。

○事務局

できなかったところについては、今後検討していきたい。それよりも伸びている項目に注力したいと考えている。

●委員長

最終評価は事務局の自己評価を追認するしかないのではないか。

●委員一同

異議なし

●委員

町との一体型の計画はいつからになるか。

○事務局

4年後なので令和5年度からとなる。

●委員

早いうちから次期計画策定に向けて取り組んだ方が良いと思う。